

サイン基準

説明サイン

説明サインとは、施設・資源等の解説を行うためのサインです。この項では説明サインの基準を示します。

文字の大きさについて	—— 76
設置基準	—— 77

文字の大きさについて

説明サインの文字の 大きさ・言語表記

説明サインについては、利用者が近距離から見ることを前提として、タイトルは和文文字高 55mm（ルビ文字高 14mm）・英文文字高 16.5mm を基準とします。

なお、文章の和文文字高 17mm・英文文字高 12mm を基準とし、文章量に応じて文字高を小さくすることも可能です。その際は、P30 の「視距離と文字の大きさの基本的な考え方」を参考とします。

言語表記は可読性・視認性を考慮し、日本語と英語の 2 言語表記を基本とします。

説明サイン（例）

〈タイトル〉
和文文字高 55mm
ルビ文字高 14mm
英文文字高 16.5mm

〈文章〉
和文文字高 17mm
英文文字高 12mm

だいじんづかこふん
大臣塚古墳
Baijin-zuka Ancient tomb

Ueno area
上野地区観光スポット
Tourist attractions

5世紀中頃に造られた全長約50mの前方後円墳で、直径約35mの後円部が現在も良好に残されています。

古墳の上にある石碑は国内最古の文化財保存記録で、江戸時代の1634年に石棺とともに発見された人骨や太刀・甲冑の復旧と埋戻しを、府内藩主の日根野吉明（ひねのよしあきら）が行った経緯が記されています。

これは水戸光徳が日本史上初めて古墳を発掘し、調査後に出土品を埋め戻した1692年より半世紀以上も前のこととなります。

古墳の名前は、百舌君大臣の伝説（百舌君大臣の伝説については、まこもヶ池の説明板に記載）に由来することが、石碑の「ゆりわか大臣塚つか」という表題から分かります。

This large keyhole-shaped ancient tomb is 50 meters long and was constructed around the middle of the 5th century. The back circular part remains in good condition and has a diameter of 35 meters.

The stone monument on top of the ancient tomb is the oldest record of cultural property preservation efforts in Japan and describes how Fudai feudal lord Hineno Yoshiakira recovered a sword, armor, and helmet that had been found along with human bones in a stone coffin in 1634 (Edo Period) prior to refilling the hole.

This event took place half a century before Mitsumasa excavated an ancient tomb for the first time in Japanese history in 1692, investigating it, and then returning the excavated items before refilling it.

The name of the ancient tomb derives itself from the legend of Yurikawa (more about the Yurikawa legend can be found on the sign for Makomogake Pond) which is also referenced in the "Yurikawa Daijindono Tsuka" wording on the stone monument.

えんじゅじ
円寿寺
Enjuji Temple

Ueno area
上野地区観光スポット
Tourist attractions

11世紀の古文書に「石壁寺」と記載され、かつては大部分の古国府にありました。大友家第6代の貞宗（さだむね）が現在地に移し、名を「円寿寺」と改めたといわれています。

江戸時代には、当時の住僧・寛佐（かんざ）と交流があった、徳川家康の弟・松平一信（いっぴん）（忠盛（ただなる））が奥座敷も訪れるなど、要人と関わりがありました。

境内には、井路藩に尽力した府内藩主の日根野吉明（ひねのよしあきら）公卿があり、釘を一本も使用していないことでも知られています。

寺宝には、県指定有形文化財の絹本着色（けんぽんちゃくしよく）・椿本人麻呂図をはじめ、大友家に関係する文書などがあり、今日まで伝えられています。

Written as "Iwayaji" in 11th century ancient texts, this temple was originally located in Furugoi, Ono City until Sadamune, a sixth-generation member of the Otomo Family, moved the temple to its present location and changed its name to "Enjuji".

During the Edo Period, the chief priest of the temple, Kana Hori, had cultivated friendships with many leading figures of the day, such as Matsudaira Ippaku (Tadanao), a grandchild of Tokugawa Iyeyasu, who visited the temple numerous times.

The tomb of former feudal lord of Fudai, Hineno Yoshiakira, who was known for his efforts in developing the irrigation system, is located on the temple grounds. The temple is famous for not having used a single nail in its construction.

The temple includes some treasured pieces, such as a colored painting of waka poet Kakimoto no Hitomaro on silk, a prefecturally designated tangible cultural property, as well as various documents and other items of the Otomo Family.

※絹本着色（絹）を一枚布に彩色して描いたもの

紙本着色大友家六代貞宗 屏風（屏風）
絹本着色大友家六代貞宗 屏風（屏風）
絹本着色大友家六代貞宗 屏風（屏風）
絹本着色大友家六代貞宗 屏風（屏風）

大友家六代貞宗 屏風（屏風）
大友家六代貞宗 屏風（屏風）
大友家六代貞宗 屏風（屏風）
大友家六代貞宗 屏風（屏風）

大友家六代貞宗 屏風（屏風）
大友家六代貞宗 屏風（屏風）
大友家六代貞宗 屏風（屏風）
大友家六代貞宗 屏風（屏風）

大友家六代貞宗 屏風（屏風）
大友家六代貞宗 屏風（屏風）
大友家六代貞宗 屏風（屏風）
大友家六代貞宗 屏風（屏風）

設置基準

設置方法

説明サインの設置に関して、位置、高さは、高齢者、障がい者等に配慮したものとします。

設置の高さ

設置された説明サインについては、車いす使用者からの見やすさに配慮し、サインの最高高さを路面より 1,800mm 程度とします。

近距離で見る車いす使用者の見やすさにも配慮し、サインの中心を路面より 1,250mm とします。

設置位置

利用者が立ち止まり見ることを前提とし、説明する対象の直近に設置します。また、人が多い場所では通行の支障にならない位置に設置することが望ましいです。

なお、サインが乱立しないよう、統合可能な場合には集約化を図るなどの検討を行うものとします。

